

## CASE 05 | 特別支援学校での事例

### 【コミュニケーション×遠隔システム】

### 「安心して授業を受けたい」



安心できる環境で、  
リモートで授業の様子  
を見ている。

#### ○子どもの願い

- ・集団から離れた所から安心して授業に参加したい。

#### ○対象の子どもの実態

- ・学校になかなか行くづらく、集団参加が苦手である。
- ・自分の得意なことや好きなこと、将来のことを考えることが苦手である。
- ・同年代との関わりは苦手であるが、特定の教員とはコミュニケーションがとれる。

#### ○指導する自立活動の区分・項目

区分:心理的な安定      項目:状況の理解と変化への対応に関すること

区分:人間関係の形成      項目:他者の意図や感情の理解に関すること  
項目:自己の理解と行動の調整に関すること

区分:コミュニケーション      項目:状況に応じたコミュニケーションに関すること

#### ○目標

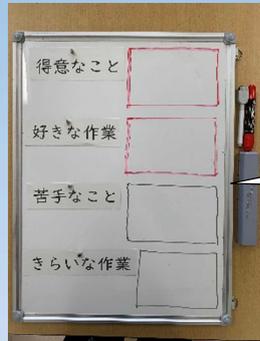
- ・リモートを活用して授業に参加し、自己理解を図り、将来の進路について考える。

#### ○指導内容

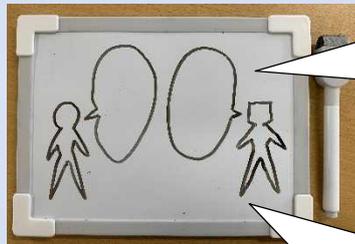
- ・子どもが安心できる環境で、リモートで授業の様子を見る。
- ・リモート授業を見ながら、子どもの気づきやつぶやきをテーマに教員と話し合う。

## ○指導内容

- ・職業や実習に関する授業をリモートで受け、授業内容を紙やホワイトボードに書き出し、教員と話し合う。
- ・吹き出しに教員と一緒に考えを書き込み、他者の視点を考える。
- ・得意なことや苦手なことを書き出し、子どもの障害特性に関連づけながら考える機会を設ける。



リモートで受けている授業内容に関連することをホワイトボードに書き出し、考える時間を設ける。



自分の発言を相手はどのように思うのか、また、相手の発言に対して、自分はどう思ったかなどを吹き出しに書き込んで考える「コミック会話」の手法を用いて自己理解や他者理解を促す。

### 〈取り扱ったテーマ〉

・友だち関係 ・挨拶 ・職場実習 ・アルバイト等

例:「(はっきりした声で)おはようございます。」「元気な挨拶ができる子だ。」「(小さな声で)おはようございます。」「恥ずかしいのかな?」

## ○使用 ICT 機器: タブレット



三脚を使用することで安定したアングルで撮影することができる。

### ○取り組む上で工夫したことや困ったこと

- ・本人が好きなことや興味のある内容を導入に用いることで、リモート参加に対する抵抗がやわらいだ。
- ・ネットワークセキュリティの関係から Web 会議システムにアクセスできる機器とそうでない機器があり、共用のタブレットから使えるものを確保する必要があった。
- ・音が聞こえにくかったので、Bluetooth のスピーカーを最初から準備しておけばよかった。

### ○【成果】子ども・教員等の変化

(子ども)

- ・リモートで参加することにより、自分の安心できる環境下で授業を受けることができ、好きなことや得意なことが見つかった。
- ・リモートの授業をきっかけに自分の進路について、教員に質問する姿がみられた。

(教員)

- ・子どもの実態に応じた学習環境の設定を考えることができた。
- ・リモートを活用することで子どもの考えを引き出したり、友だちの考えを取り入れたりして学習につながった。

### ○今後、自立活動に ICT 機器を活用する教員へのメッセージ

様々な問題に遭遇するかもしれないが、実践しながらその都度、チームで解決策を検討していくと、打開策が見出せると考える。